



セミナータイトル

2年で売上を3倍にさせた会計思考術！ ～財務3表を図解で読み解き、ビジネスに活かす方法～

川口 宏之（かわぐち ひろゆき） /
公認会計士
コンサルタント

■ 想定する対象者

- ・ 会計知識が不足していると感じている方
- ・ これまで会社の数字に関心が持てず、ずっと「会計」を避けてきた方
- ・ 「決算書ぐらい読めるようにならない」と思いつつ何から始めれば分からない方
- ・ 利益とキャッシュの違いが分からない方
- ・ 手軽に財務会計の知識を手に入れたたい方

■ コンセプト/メッセージ

ダイヤモンド社が実施した企業アンケートによると、実に83%もの企業が自社の社員に対して、「財務3表ぐらいは理解してほしい」と感じているようです。

ところが、会計スキルを身につけたいと思いつつも、その第一歩が踏み出せなかったり、学んでみただけでイマイチわからない、という方が多いようです。

今から遡ること約20年、私は猛勉強の末に取得した公認会計士の資格をもとに、大手監査法人や大手証券会社を渡り歩きました。そこで、さまざまな業種のクライアント企業と接しながら、「業績好調な優良企業は他の企業と何が違うのか」そして「優良企業にいる優秀なビジネスパーソンはその他大勢のサラリーマンと何が違うのか」ということを徹底的に研究してきました。その後、ITベンチャー企業の取締役兼CFOに就任し、会社の売上を2年間で約3倍にまで急成長させ、同時に内部管理体制の構築と財務体質の強化を行い、会社の基盤を作り上げることを行いました。

これらの経験を通じて気づいたことは、「**会計をビジネスに活かす**」ことの重要性でした。

優れたビジネスパーソンは皆、財務諸表を読み解いて経営に活かす術を身につけています。決して会計の専門家ではなくとも、最低限の会計の勘所（ツボ）を心得ているのです。これが優良企業や優秀なビジネスパーソンの共通項だということに気づきました。そして、会計をビジネスに活かすということを自ら実践し、自社の業績を急上昇させることに成功したことで、その気づきが確信に変わりました。

とはいえ、最初は苦勞の連続でした。公認会計士といっても経営に関しては素人同然。公認会計士は「財務諸表を作成」するための会計基準や会計理論については熟知していますが、「作成済みの財務諸表を読み解いて経営に活かすこと」については何も知らないのが普通です。会計と経営の有機的な関係を、実務を通じて泥臭く学び、体系化していったというのが実態です。

その後私は、会計専門のコンサルタントに転身し、会計を分かりやすく伝える研修活動をスタート

させました。クライアント企業の業績発展のためには、現場で働く社員に会計スキルを注入することが、最も本質的かつ着実だと気付いたからです。

そして、試行錯誤の末、どんなに会計に苦手意識のある人でも、簡単な図を使うことで財務諸表を読み解くことができる、画期的なメソッドを開発しました。

おかげさまで、私の講座（メソッド）を社員研修に取り入れたクライアント企業のほとんどは、その後、増収増益が続いています。そして、翌年以降も毎年の社員研修に私の講座を組み込んで、社員の会計スキル向上に力を入れています。このことは、社員一人ひとりのスキル向上が、会社全体の底上げにつながり、企業価値向上に寄与していることを、身をもって実感されていることの表れです。このような会社は総じて「強い会社」になります。ライバル企業や外部環境の変化に負けない、強靱な経営体質になるからです。

本セミナーでは、会計知識ゼロの方でも理解できるように、先ず財務会計の基本のキからスタートし、財務3表と呼ばれる「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュ・フロー計算書」を、簡単な図に置き換えて読み解くメソッドを伝授します。そして、優良企業とそうでない企業の実態が、財務3表にどう表れるのかを企業事例を使って解説しますので、自社の経営を改善・成長させるポイントがどこにあるかが見えるようになります。

本セミナーを通じて、皆様が会計をビジネスに活かす手法をマスターし、必ずや骨太な事業を展開して頂ける事を確信しております。

1. 財務会計の基礎知識

- ・財務3表を読めばビジネスが見えてくる
- ・財務3表は企業と利害関係者を結ぶコミュニケーションツール
- ・ここが基本！財務3表の基本構成

2. 貸借対照表 (B/S)

- ・B/Sをボックス図に置き換える
- ・「資産」「負債」「純資産」のそれぞれの性質
- ・「純資産」の厚みで会社の安全性が分かる
- ・流動区分を見れば短期的な支払い能力が把握できる

3. 損益計算書 (P/L)

- ・P/Lを階段図に置き換える
- ・階段図の傾斜から稼ぐ力が見抜ける
- ・5種類の利益の意味とその役割
- ・P/Lから経営戦略が見えてくる

4. キャッシュ・フロー計算書 (C/F)

- ・C/Fをウォーターフォール図に置き換える
- ・「営業C/F」「投資C/F」「財務C/F」で会社の状況が浮き彫りになる
- ・3つのC/Fの組み合わせで会社のタイプを知る
- ・「フリーC/F」で投資の健全性が分かる

5. 財務3表の相互の繋がり

- ・P/LはB/Sの純資産の期首から期末までの増減を表す
- ・C/FはB/Sの現金の期首から期末までの増減を表す

■ 受講者の感想 一部抜粋

- ・図解は分かりやすく、手を動かすパートも楽しかった。各社の事例も、経済に明るくなくとも知っているような事例で馴染みやすかった。
- ・図解、非常にわかりやすかった。今まで本を読んだりしてもピンとこない点がクリアになった。
- ・基本の図の理解と具体的事例の紹介により大変興味深く聞けた。
- ・今まで苦手だった決算書が好きになったかわかりませんが、間違いなく興味は持てました。お客様の決算書を見てみたいと思います。
- ・図解が分かりやすかった。特にP/Lの5つの利益の図解は新鮮だった。
- ・まったく触れたことの無い内容だった為、奥手になっていたが、今回学ぶことで更に掘り下げて学びたいと強く感じた。
- ・実名での企業の財務諸表説明であった為、頭に入りやすかった。

■ 実績

【直近の実績】

1. 企業研修

総合商社／情報メディア／電鉄／銀行／新聞／リース／物流／専門商社／食品メーカー／硝子メーカー／ブランド／精密機器メーカー／システム開発／金融サービス／半導体メーカー／小売 など多数

2. セミナー・講演

みずほ総研、SMBCコンサルティング、プロネクサス、アビタス、オービック、金融財務研究会、東京商工会議所（世田谷支部、江東支部、北支部）、山口県商工会、埼玉県経営者協会、静岡県労働金庫 など多数

※敬称略

【直近の著作物・メディア掲載】

夕刊フジ、エフエム浦和、プレジデント、ダイヤモンド・チェーンストア、旬刊経理情報、週刊税務通信、茨城新聞

■ プロフィール

川口 宏之 (かわぐち ひろゆき)

すべてのビジネスパーソンにとっての必須スキルである「会計」を、基礎から分かりやすく伝授する公認会計士。受講前は「会計は難しくて苦手」「数字の羅列をみただけで吐き気がする」と言っていた受講者も、受講後は「すんなり理解できた」「驚くほど簡単だった」という感想を漏らすほど、圧倒的な分かりやすさが強みの人気講師。



職歴としては、監査法人での会計監査、証券会社での引受審査、ITベンチャー企業で取締役兼 CFO、会計コンサルタントという4つの視点で「会計」に携わった経験を持つ。

監査法人では、大手信託銀行の自己査定監査を担当し、毎年100社ほどの財務諸表を多角的に分析することによって、「企業の生きた数字の捉え方」をマスターした。また、ITベンチャー企業では、独自の会計思考力を駆使し、就任からわずか**2年で売上高を約3倍**にまで急成長させただけでなく、金融機関からの融資、ベンチャーキャピタルからの資金調達などを次々に実現させ、会社の財務基盤を作り上げた。

2012年から、これまでの知識や経験をもベースにした会計関連の研修・講演活動を開始。特に、決算書の読み方・分析の仕方については、図を使った独自のメソッドが話題となり、これまで延べ1万人近くの会計嫌いの受講者を救ってきた。受講者満足度は、**5段階評価で平均4.8を超える**実績を持つ。

2013年には、そのメソッドをまとめた著書『決算書を読む技術』（かんき出版）を上梓。分かりやすさが口コミで広まり、**2万6000部のベストセラー**となる。発売から5年が経つ現在も売れ続けており、増刷に増刷を重ね、現在は10刷にまで達している。

欧米と比べると、日本では、会計（アカウンティング）に対して苦手意識を持っているビジネスパーソンが驚くほど多い。そのため、ビジネスパーソンの会計スキルが向上すれば、日本企業の価値が向上し、ひいては日本経済の持続的成長に繋がる、という信念のもと、「会計」をテーマにした講師活動、執筆活動を精力的に行っている。

